令和２年度　第１回学校運営協議会　議事録

７月８日(水)　１５：３０～１７：００　　校長室

出席委員：６人中６人　　事務局出席：校長、事務部長、教頭等全５人

１．学校長挨拶

２．委員紹介

３．会長選出

委員互選により　会長、副会長を選出した。

４．報告

学校概要、進路状況等について

教科書選定について

５．協議

＜令和２年度学校経営計画に対する意見・提言等＞

・二つのコース（アドバンスト、スタンダード）を公立で設定している学校は多くはない。コース間の情報を教員がどう対処していくか、指導の山をどこに持っていくか考える必要がある。

・進学先は関西の大学が多い。目標の達成のため生徒には、全国に視野を広げるよう指導してほしい。生徒に興味・関心を持てるものとの出会いがあれば目標も広がっていく。心が躍る体験が必要である。

→生徒はどうしても安全志向となりがちだが進路部や学年に今後の課題として投げかけたい。

・新型コロナウイルスの感染状況が今後どうなるかわからない。学校として対応ができているか。

→学習環境については、SNS 等を利用して対応している。

・大学ではオンライン授業について考え、大学や大学教員の在り方などを問い直している。これを機会に、これまでの取組みについて反省する必要がある。よりよいリモート授業を考えている。板書をしている授業をそのまま映して流すのはだめ。オンライン授業は、学生の反応が見られない。ZOOM で投票やチャットの反応を見ながら実施している。道具が変わればこちらも変わる必要がある。リモートが進む社会において教員の立ち位置も考え直し、新しい将来を考える機会にすべき。そのためにも、生徒も自分を律する「自律」が問われることになる。

対面ができない相談をどのように受けるか考える必要がある。

縦のつながりだけではなく、積極的なスタッフによる横のつながりのチームで進めるほうがよい。技術に強い教員のみで進めることが必ずしも得策とは言えない。

リモート授業になるとき、布施高校を一言で伝えるインパクトがほしい。尖がってほしい。

少し余裕ができたら、アフターコロナを想定して授業を考え直す必要がある。

・たとえば「遅刻対策をいっしょに考えるチーム」など希望者を募ってはどうか。また、貴重な教育資源である司馬遼太郎記念館をどんどん活用してはどうか。